

オープンキャンパスで「ビブリオバトル」を開催しました

7月16日（日）に開催されたオープンキャンパスのイベントの一つとして、図書館では知的書評合戦「ビブリオバトル」を開催し、52名の方々に来場いただきました。

ビブリオバトルとは、発表者が読んで面白いと思った本を5分間で紹介し、2分間の質疑応答の後、発表を聞いた観客が「どの本が一番読みたくなかったか」を基準に投票を行い、チャンプ本を決める知的書評合戦です。

開催5年目の今回は、文学部国文学科1年生2人、2年生1人、文学部中国文学科1年生1人の計4人の学生が挑戦！4人はそれぞれ違ったジャンルの本を持ちより、観客の興味を引き出す楽しいプレゼンを行いました。

すべての発表が終わった後、土屋 茂図書館長（国際政治経済学部教授）の進行で発表者と座談会を行いました。“本が好き”という同じ気持ちを持つ4人は、土屋図書館長を中心に、日頃の本に対する想い・愛情を、また、二松学舎大学の学生生活について語ってくれました。受験生の方々に読書生活や大学生活の楽しさが伝わる座談会となりました。

チャンプ本には、『たったひとつの冴えたやりかた』、というSF作品が選ばれました。チャンピオンには、11月に千葉県柏市立図書館と市内の4大学（本学、東京大学、開智国際大学、麗澤大学）で行われるビブリオバトルに、本学代表として出場していただきます。ご来場、そして、投票いただきました皆様、ご協力誠にありがとうございました。



【今回紹介された本】★印がチャンプ本

『蝶々の纏足』（山田 詠美 著 河出書房新社/河出文庫 1987年）

『ふわふわ うさぎ川柳』（うさぎの時間編集部 編 誠文堂新光社 2017年）

『わたしを離さないで』（カズオ・イシグロ 著 土屋 政雄 訳 早川書房/ハヤカワ文庫 2008年）

★『たったひとつの冴えたやりかた』 出版社(ハヤカワ文庫SF)

(ジェイムズ・ティプトリー・ジュニア 著 浅倉 久志 訳)